

# 平成19年度総会・特別講演会報告

Report on the JSPME General Assembly 2007 and the Special Lectures

三菱ウェルファーマ(株) 製剤研究所  
Pharmaceutics Laboratories Mitsubishi Pharma Corporation

野口 哲郎  
Tetsuro NOGUCHI



挨拶する寺田勝英会長

平成19年度の製剤機械技術研究会総会とそれに引き続き特別講演会が4月18日(水)文京シビック小ホール(東京都文京区)にて、総会48名、特別講演会約115名の参加を得て開催されたので以下に報告する。

## 1. 総会

総会への参加者数は、総会員数850名の4分の1(213名)以上を満たす386名(出席者48名、委任状338名)であり、会則に基づき総会が成立した旨、司会の久保事務局長から宣言された。

開会にあたり寺田勝英会長より以下の挨拶があった。

製剤機械技術研究会は今年で17年目を迎え、講演会・工場見学会・教育研修会及び各委員会活動も益々活発になり、事業体会員も昨年10社ほど増え200社を越えるまでになった。

本年度の主な活動としては、8月に、第16回講演

会が神戸薬科大学の北河修治先生を実行委員長として「医薬品の流通と適正使用」をメインテーマに開催予定である。また、10月には第17回大会を東京薬科大学の岡田弘晃先生を実行委員長として、12月には第8回の製剤機械技術シンポジウムがアステラス製薬の梶山実行委員長のもと「品質フォーラム」と製薬協の協賛も得て計画されている。教育研修会は申込み開始後一週間で定員一杯になるほど、毎年好評を博している。本年度は、6期目になる内服固形製剤、4期目の無菌製剤の研修会に加え、下期に半固形製剤も2日間の日程で計画されている。また、第2期目になる出張研修も昨年同様に奈良県製薬・薬剤師会の協力を得て実習を含めた10回の研修会を予定している。

各種委員会・分科会活動も活発で、昨年ホームページ委員会では、シンポジウムなどの申し込みをホームページ上から可能とした他、会員専用ページも作成して会員へのタイムリーな情報提供を可能とし

た。また本年は、包装分科会にてプリスター包装技術に関するキャラバン研修会なども計画している。

最後に、3年後に予定されている20周年の記念事業についても準備を始めていることが紹介され、本会の活発な活動や成果が会員の皆様のボランティア活動に支えられていることから、会員および関係企業のご協力に対してお礼を申し述べ、今後ご支援をお願いしたい旨のお礼とお願いで会長挨拶が締めくくられた。

引き続き、会則の規定に従い寺田会長が議長となり議事に入った。まず、議事録署名人の指名が諮られ、フロイント産業(株)の伏島靖豊氏と石川島プラントエンジニアリング(株)の武田豊彦氏の2名が選出された。

[第1号議案]平成18年度会務報告に関して愛知絏治副会長より各種委員会の活動内容について説明があり、承認された。[第2号議案]平成18年度決算報告については草井章副会長より説明がなされた。続いて平成18年度監査報告について砂田久一監事より山口博之監事他の立会いのもと監査が行われ正確であった旨の報告があり、共に承認された。[第3号議案]平成19年度会務計画案については、愛知絏治副会長より[第4号議案]平成19年度予算案については草井章副会長より、それぞれ説明があり、満場一致で承認され、以上をもってすべての議事の審議を終了した。

引続いて、第7回「製剤機械技術研究会 仲井賞」について岡田弘晃選考委員長より、昨年11月10日の締め切り時点で1件の応募があり、適否について審査を行いフロイント産業(株)の武井成通氏、岩崎章氏が受賞者として決定した旨が報告された。受賞理由は、「遠心転動造粒コーティング装置(グラニュレックス)の開発」で、本装置の開発が、技術的な特徴、実用性、他社技術との差異化、特許取得などの点において優れており、国内30社、海外数社に納入実績があることも受賞に値する業績として評価された。尚、授賞式と受賞講演は、本年10月の第17回大会で行われる。

最後に愛知絏治副会長より、会員数も853名と過去最大となり、教育研修会、各委員会活動も益々充実してきており本会が着実に発展している中、今年度も会務計画達成のために役員、事務局一丸となって任にあたりたい旨の閉会の辞があり、総会を終了した。

## 2. 特別講演会

総会に続き115名の参加者のもと2題の特別講演

が行われた。

特別講演—1は、風間泰一先生(野村マイクロ・サイエンス(株) 事業統括推進部 FDプロセスグループリーダー)を講師に、座長に岡田弘晃教授(東京薬科大学 薬学部)を迎えて「超純水製造技術の進歩」と題して、特別講演—2は、Kailash D. Sharma先生(Director, Business Anarysis, Sanofi-Aventis, K.K.)を講師に、座長に山本恵司教授(千葉大学大学院 薬学研究院)を迎えて「The Emerging Face of Indian Pharmaceutical Industry」と題して講演された。風間先生の講演内容は、超純水の製造技術の歴史から最新の技術まで超純水技術について、Sharma先生は経済発展が著しいインドの紹介から、製薬産業の現状と日本との関係について発表され、大変興味深く拝聴したので、以下にその内容について報告する。

### 2-1 「超純水製造技術の進歩」

今回の講演は、これまで注射用水製造装置の開発に関わってきた風間先生の経験をバックグラウンドに、原水を純化プロセスにより超純水にするための製造技術の歴史と技術の進歩、米国と日本とのシステムの違い、オフライン/オンラインの分析技術、汚染防止のサンプリング技術、システムの日常管理、電子産業用の水と製薬用水との違いについてなど、わかり易い図表を交えての説明であった。



講演する風間泰一先生

超純水とは、電解質や有機物生菌、微粒子、溶存ガスなどを高度に除去した水のことで、理想的には、 $H_2O$ 分子以外を含まない水のことである。ただし、実際には用途により使い分けが行われており、半導体向けの超純水が、ほとんどの不純物を極限まで除去しているのに対して、液晶やプラズマディスプレイ向けでは全体としての水質は半導体ほど高くなくても良い。また、製薬用水は製造法が局方で規定され

ているプロセスである必要があり、注射用水では蒸留工程が必要であるが、半導体向けでは、品質、コスト優先で蒸留は不要であるなどの特徴について示した。

超純水システムのキーアイテムは、逆浸透膜(RO)と電気式連続再生イオン交換装置(EDI)であるが、装置を構築する場合の仕様の決定要因は、原水の水質、要求される超純水の水質レベルと必要超純水の量が鍵となる。技術革新によって、構成機器がシンプルになり、再生工程も省略できるようになったため、自動運転が可能となった。結果として、管理要員の削減にもつながり低コスト化が実現されたことが挙げられた。

講演の締めくくりとして、今後の展望ということで、超純水の品質に対して要求が上がってきたが、現在は、ほぼ理論純水に近いレベルまで達成できつつあり、技術的には到達点レベルである。今後は、企業が超純水設備を所有することなく運転管理・メンテナンスまで含めて全てを委託できるシステム、BOOM(Build Own Operate & Maintenance)契約のような外部委託が主流となっていくことを示された。

## 2-2 「The Emerging Face of Indian Pharmaceutical Industry」

2050年には、インドは人口16.3億人で中国を抜いて世界一になる見通しで、増加する労働力と消費に世界中が注目している。また、投資部門の市場開放や産業インフラの整備で最近のインドは、非常に高い経済成長率を維持している。2050年までは5%以上のGDPの成長が見込まれ、イタリア、フランス、ドイツ、日本を抜いて中国、米国に次ぐ世界第3位の経済大国になることが示された。さらに、現時点



特別講演会会場

でも多くの優秀な頭脳労働者が各方面で活躍しており、米国の博士の40%以上、科学者の12%以上、NASA科学者の36%以上、マイクロソフトの34%以上など英語が公用語であることも味方して、特に米国への進出が目立つ。これは、インド国内から頭脳流出と憂慮されたが、最近2~3年では、約25%がインドに戻っており、インドへの帰国者も増加していることから、今後は更なる発展が期待出来ることが述べられた。



講演するDr. Kailash Sharma

インドの医療事情に目を向けると、これもまた、経済成長に伴う裕福層の増加による需要増とライフスタイルの欧米化による急性疾患治療薬から慢性疾患治療薬へのシフトなど世界的にみても製薬企業の魅力的な市場となる。また、インドの製薬企業の状況と見通しとして、研究開発力のアップにより、原薬の輸出、ジェネリック開発から将来は革新的な新薬の創出も期待されることが示された。これは、知的財産権の保護が先進国並みになったことが大きい。すなわち、1995年には物質特許が認められ、その保護期間も20年と米国、日本と同じになった。さらにインドの製薬会社においては、100%外国企業による直接投資も可能となり、投資環境が開放されていることも海外の製薬企業にとって魅力が大きい理由の一つである。欧米の製薬企業は、拠点をインドに移すだけで3~4割のコストダウンになることが強調された。

最後に日本との関係について説明された。インドにおける日本企業のビジネスの現状や投資状況、インドにおける日系製薬企業の進出状況と、その逆に日本におけるインドの製薬企業の状況について示され、インドの知的財産保護環境の整備、技術力の高さ、コスト競争力の高さ、高い品質、スピードなどが今後も発展の推進力となることを総括して講演が締めくくられた。

[第1号議案]

製剤機械技術研究会

平成19年4月18日

平成18年度会務報告

会 務	回数	開催日	場 所/内 容	参加者(名)
総会・特別講演会	1	4月25日	きゅりあん (東京・品川区)	総会(含委任状) 363名 特別講演会 92名
第16回大会(大阪)	1	10月12日 ～13日	千里ライフサイエンスセンター (大阪・千里)	大会 294名 交流会 181名
第15回講演会	1	8月25日	共立薬科大学 (東京・港区)	講演会 111名
第7回製剤機械技術 シンポジウム	1	11月24日	名城大学薬学部 (愛知・天白区)	130名
仲井賞発表	1	10月12日	長谷川 浩司氏	1名
第31回工場見学会	3	2月9日 ～10日	アルプス薬品工業(株) 大洋薬品工業(株)	63名
第32回工場見学会		6月9日	持田製薬工場(株)	99名
第33回工場見学会		10月20日	東亜薬品(株)	63名
第5期教育研修会	12	5月14日～ 11月19日	東邦大学他 内服固形剤 8回 無菌製剤 4回	延 496名 延 210名
第1期出張研修	6	4月28日～ 12月15日	奈良県薬業会館 8回	延 624名
会誌の発行	4	3, 6, 9, 12月	Vol. 15(No. 1～4)	
会員名簿発行	1	9月	(18年度版)	

平成18年度 委員会 開催回数

・役員会	1回	・会誌/論文 編集委員会	6回
・常任委員会	2回	・工場見学会実行委員会	6回
・正副会長会議	5回	・ホームページ委員会	5回
・正副委員長会議	1回	・GMP委員会関係	31回
・第16回大会実行委員会	6回	・教育委員会	8回
・第17回大会実行委員会	1回	・国際委員会	3回
・第15回講演会実行委員会	4回	・PAT委員会	2回
・第7回製剤機械技術 シンポジウム実行委員会	4回	・仲井賞実行委員会	1回
		・その他	1回
総開催数 113回 (昨年度実績 124回)			

[ 第2号議案 ]

製剤機械技術研究会

平成18年度 収支決算報告書

(自：平成18年1月1日 至：平成18年12月31日)

[ 収入の部 ]

[ 単位 : 円 ]

大 科 目	小 科 目	本年度予算	実績	備考
会 費 収 入	事 業 体 会 費	37,200,000	38,300,000	会 員 198社完納
	個 人 会 費	1,210,000	1,210,000	個人会員 242名完納
	小 計	38,410,000	39,510,000	
事 業 収 入	講演要旨集 広告代	800,000	850,000	大会要旨集広告 17社
	会 誌 広 告 代	3,200,000	3,174,000	会誌51, 52, 53, 54号広告代
	大会個人会員参加費	500,000	410,000	個人会員参加 41名
	大会非会員参加費	0	50,000	非会員参加 1名
	交 流 会 参 加 費	800,000	912,000	交流会費納入 114名
	講演会非会員参加費	100,000	30,000	非会員参加 3名
	教育研修会参加費 固形 全テーマ	5,250,000	6,600,000	(固形) 参加 44名
	教育研修会参加費 固形 個別テーマ	660,000	1,050,000	(固形個別) 参加 35名(延人数)
	教育研修会参加費 無菌	3,040,000	2,720,000	(無菌) 参加 34名
	シンポジウム 非 会 員 参 加 費	50,000	30,000	非会員参加 3名
	本等販売費 / 著作権料	760,000	516,370	技術用語辞典、他
	工 場 見 学 参 加 費	1,245,000	1,338,000	第31、32、33回工場見学会 参加費分
	中国工場見学参加費	0	159,000	見学報告書販売費 (参加者のみ販売)
	小 計	16,405,000	17,839,370	
雑 収 入		10,000	6,650	受取り手数料等(本等の送料)
中 計		54,825,000	57,356,020	
受 取 利 息		10,000	11,254	銀行利息
収 入 計		54,835,000	57,367,274	
預 り 金 ( 源 泉 所 得 税 )		900,000	1,138,758	源泉所得税の預り分
前 受 け 金		0	10,000	来年度個人会員先納2名分
前 期 繰 越 金		56,187,965	56,187,965	
今 期 収 入 合 計		111,922,965	114,703,997	

[支出の部]

大 科 目	小 科 目	本年度予算	実績	備考
出版事業 出版物費	会誌編集刊行費	6,800,000	6,660,561	52号、53号、54号、55号会誌発行
	会員名簿刊行費	430,000	421,050	会員名簿
	GMP手順書刊行費	900,000	0	GMP委員会：PTP関係、原薬関係書籍 来年度作成
	小 計	8,130,000	7,081,611	
研究技術 講演研修 事業費	総 会 費	450,000	466,663	きゅーりあん：4月25日
	大 会 費	6,500,000	7,880,176	大阪千里ライオン：10月12日、13日
	講 演 会 費	700,000	924,411	関東地区(共立薬科大)
	シンポジウム費	900,000	1,042,082	中部地域(名城大学)
	教育研修会費 固形	6,100,000	5,888,259	研修会 8回実施
	教育研修会費 無菌	1,900,000	2,524,308	研修会 4回実施(予算時3回計画)
	仲 井 賞	250,000	363,800	㈱パウレック 長谷川氏受賞
	中国工場見学会費	0	159,000	見学報告書作成費
	小 計	16,800,000	19,248,699	
委 員 会 活 動 費	執 行 委 員 会 費	1,150,000	973,397	委員会活動
	会誌編集委員会費	300,000	232,891	同上
	教 育 委 員 会 費	300,000	351,155	同上
	工 場 見 学 会 費	1,848,000	1,915,254	31回、32回、33回工場見学会実施
	ホームページ委員会費	700,000	590,980	HPメンテナンス費含み
	G M P 委 員 会 費	1,060,000	681,960	委員会活動
	国 際 委 員 会 費	400,000	147,800	同上
	P A T 委 員 会 費	200,000	105,000	同上
	小 計	5,958,000	4,998,437	
管 理 費	出 張 交 通 費	100,000	12,130	
	事 務 用 品 費	500,000	576,629	事務所事務用品購入費
	事 務 所 会 議 費	300,000	223,679	会議用お茶代他
	印 刷 費	900,000	707,932	事務所印刷代
	事 務 機 リ ー ス 料	1,100,000	1,141,560	パソコン、電話、コピー機
	新 聞 函 書 費	260,000	181,645	新聞代
	一 般 消 耗 品 費	50,000	0	
	器 具 備 品 費	100,000	102,000	パソコン購入
	サ ー バ ー 使 用 費	400,000	395,531	
	通 信 費	600,000	460,062	宅急便、郵便、切手代
	業 務 委 託 費	130,000	115,500	決算報告等会計事務所支払
	謝 礼 品 費	10,000	0	
	交 際 費	60,000	0	
	公 租 公 課	80,000	87,700	都民税支払
小 計	4,590,000	4,004,368		

大 科 目	小 科 目	本年度予算	実績	備考
事業所費	賃貸料（三好）	4,000,000	3,717,000	管理費含む
	水道光熱費	250,000	259,568	
	清掃料	40,000	69,996	事務所清掃、マット交換費
	小計	4,290,000	4,046,564	
人件費	給料	12,650,000	12,004,444	事務局員3名
	交通費	900,000	592,320	同上
	アルバイト料	50,000	0	
	小計	13,600,000	12,596,764	
保 険	料	200,000	261,185	雇用保険代3名分
海 外 出 張	費	500,000	395,155	AAPS2006参加(アメリカ)
調 査	費	50,000	0	
予 備	費	600,000	450,000	WEB申し込みシステム構築費
雑	費	100,000	56,670	振り込み手数料
小	計	1,450,000	1,163,010	
中	計	54,818,000	53,139,453	
前 年 度 前 払 金 振 替 額		△ 32,150	△ 32,150	きゅりあん会場前年度支払分
支 出	計	54,785,850	53,107,303	
預り金（源泉所得税）納付額		900,000	1,138,758	講演者、執筆者、事務局員源泉徴収税
当期余剰金（次期繰越金）		56,237,115	60,457,936	
今 期 支 出 合 計		111,922,965	114,703,997	

平成18年度の収支決算について上記の通り報告します。

平成19年1月16日（火）

製剤機械技術研究会 会長 寺田 勝英



上記計算書および帳簿等による監査の結果、  
いづれも正確なものと認めます。

平成19年1月23日（火）

製剤機械技術研究会 監事 砂田 久一



同

同 山口 博之



〔預金・現金残高内訳〕

定期預金（三井住友）	10,000,000
定期預金（三菱東京UFJ）	10,005,294
決済用普通預金（三井住友）	14,500,000
普通預金（会長口座：三井住友）	23,548,017
普通預金（局長口座：三井住友）	2,129,547
郵便預金	5,000
現金	270,078
合計	60,457,936

[第3号議案]

製剤機械技術研究会

平成19年4月18日

平成19年度会務計画(案)

会 務	日 程	場 所	実 行 委 員 長	備 考
総会・特別講演会	4月18日(水)	文京シビック小ホール		特別講演2題
第17回大会(東京)	10月11日(木) ～12日(金)	こまばエミナース	岡田実行委員長	交流会
第16回講演会	8月24日(金)	大阪千里 ライオンサイエンスセンター	北河実行委員長	
第8回製剤機械技術 シンポジウム	12月(未定)		梶山実行委員長	
第5回ワークショップ	11月2日(金) 11月30日(金)	共立薬科大学 富山薬業会館	平澤実行委員長	PTP設備の適格性 評価の講演と討論会
第34回工場見学会	3月16日(金)	CKD(株)小牧工場	小澤委員長	参加者 64名
第35回工場見学会	6月15日(金)	参天製薬(株)		募集参加者50名予定
第36回工場見学会	10月予定	ニプロ&ニプロファーマ(株)		募集参加者80名予定
第6期教育研修会	内服固形製剤 5月より8回	東邦大学 他	愛知委員長	募集参加者 38名
	無菌製剤 5月より4回	澁谷工業(株) 他	同 上	募集参加者 35名
	半固形製剤 11月より2回		同 上	募集参加者 30名
第2期出張研修	奈良県製薬 技術研修会	奈良県薬剤師会館	同 上	募集参加者 100名
	4月より10回 7月より3回	フロイント産業(株) 他	同 上	募集参加者 25名
会誌の発行	3, 6, 9, 12月	事務局	愛知委員長	
会員名簿発行	6月	事務局		

平成19年度 委員会 開催予定

・役員会	1回	・会誌/論文 編集委員会	5～6回
・常任委員会	2～3回	・工場見学委員会	10～13回
・正副会長会議	6～7回	・ホームページ委員会	6～7回
・正副委員長会議	2～3回	・GMP委員会	25～30回
・第17回大会実行委員会	6～8回	・教育委員会	8～10回
・第18回大会実行委員会	3～4回	・国際委員会	4～5回
・第16回講演会実行委員会	4～5回	・PAT委員会	5～6回
・第8回製剤機械技術 シンポジウム実行委員会	4～5回	・仲井賞選定委員会	1～2回
・第5回製剤機械技術 ワークショップ実行委員会	3～4回	・20周年記念出版委員会	4～5回

[ 第4号議案 ]

製剤機械技術研究会

平成19年度 収支予算案

( 自 : 平成19年1月1日 至 : 平成19年12月31日 )

[収入の部]

( 単位 : 円 )

大 科 目	小 科 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備考
会 費 収 入	事 業 体 会 費	37,200,000	38,300,000	40,000,000	200社×20万円
	個 人 会 費	1,210,000	1,210,000	1,200,000	240名×5千円
	小 計	38,410,000	39,510,000	41,200,000	
事 業 収 入	講 演 要 旨 集 廣 告 代	800,000	850,000	1,100,000	16社×50,000円+パナー広告30万円(2万円×15社)
	会 誌 廣 告 代	3,200,000	3,174,000	3,500,000	55,56,57,58号広告+パナー広告30万円(2万円×15社)
	大 会 個 人 会 員 参 加 費	500,000	410,000	500,000	50名×10000円
	大 会 非 会 員 参 加 費	0	50,000	0	
	交 流 会 参 加 費	800,000	912,000	800,000	100名×8000円
	講 演 会 非 会 員 参 加 費	100,000	30,000	0	
	教 育 研 修 会 参 加 費 固 形 全 テ ー マ	5,250,000	6,600,000	5,700,000	38名参加×15万円
	教 育 研 修 会 参 加 費 固 形 個 別 テ ー マ	660,000	1,050,000	900,000	30名参加×3万円
	教 育 研 修 会 参 加 費 無 菌	3,040,000	2,720,000	2,400,000	30名参加×8万円
	教 育 研 修 会 参 加 費 半 固 形	0	0	1,500,000	38名参加×4万円
	ワ ー ク シ ョ ッ プ 参 加 費	0	0	750,000	東京、富山開催：2箇所×5,000円×30名
	シ ン ポ ジ ウ ム 非 会 員 参 加 費	50,000	30,000	0	
	本 等 販 売 費 / 版 権 料	760,000	516,370	500,000	
	工 場 見 学 参 加 費	1,245,000	1,338,000	2,150,000	第34回(CKD)、第35回(参天製薬)、第36回(ニプロ&ニプロファーマ)
	中 国 工 場 見 学 参 加 費	0	159,000	0	
小 計	16,405,000	17,839,370	19,800,000		
雑 収 入		10,000	6,650	10,000	受取手数料(本等の送料)
中 計		54,825,000	57,356,020	61,010,000	
受 取 利 息		10,000	11,254	10,000	銀行利息
前 年 度 前 受 金 振 替 額		0	0	10,000	個人会費前年先払分(2名)
収 入 計		54,835,000	57,367,274	61,030,000	
預 り 金 ( 源 泉 所 得 税 )		900,000	1,138,758	1,000,000	源泉所得税の預かり分
前 受 け 金		0	10,000	0	
前 期 繰 越 金		56,187,965	56,187,965	60,457,936	
今 期 収 入 合 計		111,922,965	114,703,997	122,487,936	

〔支出の部〕

( 単位 : 円 )

大 科 目	小 科 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備考
出版事業	会誌編集刊行費	6,800,000	6,660,561	6,600,000	56号、57号、58号、59号会誌
	会員名簿刊行費	430,000	421,050	430,000	会員名簿 6月発行 950部
	GMP手順書刊行費	900,000	0	1,200,000	GMP委員会：PTP関係、原薬関係
	技術用語刊行費	0	0	0	
	カタログ作成費		0	500,000	製機研新パンフレット作成費
	小 計	8,130,000	7,081,611	8,730,000	
研究技術	総 会 費	450,000	466,663	450,000	シッコール(文京区)：4月18日
	大 会 費	6,500,000	7,880,176	7,000,000	駒場ミナース(渋谷区)：10月11日、12日
	大会展示 小間代	0	0	0	
	講 演 会 費	700,000	924,411	900,000	千里ライオンインセンター(大阪)
	シンポジウム費	900,000	1,042,082	1,000,000	静岡地域：12月予定
	教育研修会費 固形	6,100,000	5,888,259	4,900,000	8回×38名(全チーム参加)+24名(個別参加)
	教育研修会費 無菌	1,900,000	2,524,308	2,300,000	4回×34名
	教育研修会費 半固形	0	0	1,250,000	3回×30名
	適 格 性 評 価 ワークショップ費	0	0	1,200,000	PTP適格性評価ワークショップ：東京、富山
	仲 井 賞	250,000	363,800	250,000	
	工 場 見 学 会	0		2,850,000	第34回(CKD)、第35回(参天製薬)、 第36回(ニフ ロ&ニフ ロファーマ)
	中国工場見学会費	0	159,000	0	
小 計	16,800,000	19,248,699	22,100,000		
委員 会	執 行 委 員 会 費	1,150,000	973,397	1,000,000	
	会誌編集委員会費	300,000	232,891	250,000	
	教 育 委 員 会 費	300,000	351,155	400,000	
	工 場 見 学 会 費	1,848,000	1,915,254	180,000	工場見学会実務費は研究講演事業に移動
	ホームページ委員会費	700,000	590,980	200,000	HPメンテナンス費は管理費側に移動
	GMP委員会費	1,060,000	681,960	800,000	HPデータベース掲載費は管理費側に移動
	国 際 委 員 会 費	400,000	147,800	700,000	翻訳代50万円計上、他
	P A T 委 員 会 費	200,000	105,000	500,000	
	記念出版実行委員会	0	0	340,000	20周年記念出版事業に向けて新設
	小 計	5,958,000	4,998,437	4,370,000	
管 理 費	出 張 交 通 費	100,000	12,130	50,000	
	事 務 用 品 費	500,000	576,629	600,000	事務所事務用品購入費
	事 務 所 会 議 費	300,000	223,679	250,000	お茶代他
	印 刷 費	900,000	707,932	700,000	事務所印刷代
	事 務 機 器 リース料	1,100,000	1,141,560	1,100,000	パソコン、電話、コピー機
	新 聞 函 書 費	260,000	181,645	200,000	新聞代
	一 般 消 耗 品 費	50,000	0	10,000	
	器 具 備 品 費	100,000	102,000	100,000	小型カラーコピー機購入費
	サ ー バ ー 使 用 費	400,000	395,531	400,000	OCN
	ホ ー ム ペ ー ジ 管 理 費	0	0	1,730,000	HPメンテナンス等画面更新費
	通 信 費	600,000	460,062	400,000	電話代
	業 務 委 託 費	130,000	115,500	100,000	決算報告等会計事務所支払
	謝 礼 品 費	10,000	0	10,000	
	交 際 費	60,000	0	50,000	
	公 租 公 課	80,000	87,700	70,000	都民税支払
	小 計	4,590,000	4,004,368	5,770,000	

( 単位 : 円 )

大 科 目	小 科 目	本年度予算 平成18年度	本年度決算 平成18年度	来年度予算 平成19年度	備考
事業所費	賃貸料（三好）	4,000,000	3,717,000	3,720,000	管理費を含む
	水道光熱費	250,000	259,568	250,000	
	清掃料	40,000	69,996	70,000	事務所清掃、マット交換費
	小計	4,290,000	4,046,564	4,040,000	
人件費	給料	12,650,000	12,004,444	12,000,000	事務局員給与
	交通費	900,000	592,320	600,000	
	アルバイト料	50,000	0	0	
	小計	13,600,000	12,596,764	12,600,000	
保険料	200,000	261,185	270,000	雇用保険代	
海外出張費	500,000	395,155	500,000		
調査費	50,000	0	50,000		
予備費	600,000	450,000	500,000		
雑費	100,000	56,670	60,000	振り込み手数料	
小計	1,450,000	1,163,010	1,380,000		
中計	54,818,000	53,139,453	58,990,000		
仮払金	0	0	0		
前年度前払金振替額	-32,150	-32,150	0		
別途積立金	0	0	3,000,000	第20回記念大会積立金	
支出計	54,785,850	53,107,303	61,990,000		
預り金（源泉所得税）納付額	900,000	1,138,758	1,000,000	講演者、執筆者、事務局員源泉徴収税	
当期余剰金（次期繰越金）	56,237,115	60,457,936	59,497,936		
今期支出合計	111,922,965	114,703,997	122,487,936		

20周年記念事業を行う為、平成19年度～平成21年度の3年間にわたり毎年300万円を別途積立金として計上します。

# 製剤機械技術研究会

## 役 員 名 簿

(五十音順)

会 長 寺 田 勝 英 (東邦大学薬学部 教授)

---

副 会 長 愛 知 紘 治 (元大正製薬(株) 治験薬製造センター長)

副 会 長 岡 田 弘 晃 (東京薬科大学薬学部 教授)

副 会 長 草 井 章 (第一三共(株) 製剤研究所 上席研究員 )

---

常任委員 安 藤 英 信 (エーザイ(株) 川島工園長兼工場長)

常任委員 大 塚 史 久 (大成建設(株) 執行役員 エンジニアリング 本部長兼エコロジー本部長)

常任委員 梶 山 篤 司 (アステラス製薬(株) 製剤研究所 経口剤研究室 室長)

常任委員 川 島 嘉 明 (愛知学院大学薬学部 教授)

常任委員 久 米 龍 一 (塩野義製薬(株) 常務執行役員 製造本部長 )

常任委員 高 嶋 武 志 (株)パウレック 代表取締役社長)

常任委員 高 山 幸 三 (星薬科大学 教授)

常任委員 武 田 豊 彦 (石川島プラントエンジニアリング(株) INE 事業部 技術顧問)

常任委員 檀 上 和 美 (名城大学薬学部 教授)

常任委員 寺 菌 隆 (中外製薬(株) 品質保証部 部長)

常任委員 中 上 博 秋 (第一三共(株) 製剤技術研究所 所長)

常任委員 伏 島 靖 豊 (フロイント産業(株) 代表取締役 会長)

---

委 員 今 井 良 則 (ノバルティスファーマ(株) 生産本部 テクニカルサポート部長)

委 員 荻 原 健 一 (株)野村総合研究所 ヘルスケアイノベーション事業部 上席コンサルタント)

委 員 小 口 敏 夫 (山梨大学医学部 附属病院薬剤部 教授)

委 員 片 岡 隆 博 (塩野義製薬(株) CMC開発研究所長)

委 員 甲 木 宏 明 (株)ミューチュアル 取締役 東京支店長)

委 員 釜 田 哲 郎 (不二パウダル(株) 医薬営業部 専門職次長)

- 委員 神谷明良 (ファイザー(株) 名古屋工場 製剤技術研究室 室長)
- 委員 佐藤耕治 (ニプロファーマ(株) 開発部 部長)
- 委員 島田啓司 (株菊水製作所 代表取締役社長)
- 委員 高木和行 (みづほ工業(株) 常務取締役)
- 委員 高橋 治 (サクラ精機(株) マーケティング部 学術広報課 課長)
- 委員 高橋正人 (大正製薬(株) 岡山工場 調整グループ)
- 委員 中島新一郎 (城西国際大学 副学長 薬学部長 教授)
- 委員 橋本亮二 (鹿島建設(株) エンジニアリング本部 本部次長)
- 委員 畑 洋三 (株畑鐵工所 代表取締役社長)
- 委員 花村 聡 (株ツムラ 品質保証部 課長)
- 委員 福田健一 (澁谷工業(株) プラント営業統括本部 参与)
- 委員 本多 清 (CKD(株) 代表取締役 専務執行役員 自動機械事業本部長)
- 委員 松本 治 (千代田化工建設(株) 医薬品プロジェクト部 技師長)
- 委員 宮田清巳 (ホソカワミクロン(株) 代表取締役 副社長)
- 委員 宮本誠人 (日揮(株) 産業プロジェクト統括本部 ライフサイエンス・ケミカル事業本部  
本部長代行)
- 委員 山口俊和 (株メドレックス 研究開発本部長)
- 委員 吉野廣祐 (神戸学院大学薬学部 ライフサイエンス産学連携研究センター  
客員特別研究員)
- 委員 米持悦生 (東邦大学薬学部 准教授)

- 
- 監事 砂田久一 (名城大学薬学部 教授)
- 監事 山口博之 (明治製菓(株) 薬剤研究室 室長)

- 
- 名誉会長 仲井由宣 (千葉大学 名誉教授)
- 顧問 杉原正泰 (創包工学研究会)
- 顧問 山本恵司 (千葉大学大学院薬学研究院 教授)
- 

(敬称略)